

様式第5号（第2条関係）

平成22年4月23日

大崎市議会議長 青沼智雄 様

会派等名 未来・おおさき

代表者名 佐藤 勝



平成21年度政務調査費収支報告について

大崎市議会政務調査費の交付に関する条例第8条の規定に基づき、別紙のとおり政務調査費収支報告書を提出します。



(別紙)

平成21年度政務調査費収支報告書

会派等名 みらい・おおさき

1 収入

政務調査費 400,000 円

2 支出

科 目	金 額(円)	備 考
研 究 研 修 費		
調 査 旅 費	363,983	北海道石狩郡当別町, 石狩市, 夕張郡長沼町
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
広 報 費		
公 聴 費		
人 件 費		
事 務 所 費		
そ の 他 の 経 費		
合 計	363,983	

(注)備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

3 残額 36,017 円

政務調査活動概要報告書

会派等名 みらい・おおさき

調査期間 平成21年8月4日～6日

8月4日	北海道石狩郡当別町	ふゆみず田んぼの取り組み・農業振興策
8月5日	北海道石狩市	環境基本計画と取り組み
8月6日	北海道夕張郡長沼町	まおいグリーンツーリズムの取り組み

調査の目的

いま、世界はエコな時代である。日本はこれまでの基準より25パーセント削減を国をあげて世界に宣言し、地球温暖化などに取り組むという。また、地方といえば農業の活力なくして地域の活性化はなく、それぞれの地域の農業を見直し、本市も野鳥に選ばれた大崎市を標榜し、環境政策に向けた取り組みを始めている。

当別町と大崎市そして伊達邦直公

当別町の歴史は今を去る140年前、明治維新の奥羽越列藩同盟に加わった宗藩の命により、官軍と交戦した。味方の多くは官軍に下ったため、戦に破れた。

これまで1万4千石の禄高は65石に減封され、城も召し上げられ家臣の身分も剥奪された。

平民となった殿様は家臣団の路頭に迷うことを憂い、私財を処分し新政府が進めた北海道開拓を志願した。明治4年3月明治新政府の北の護りと北海道開拓に希望を託し開拓に身を投じ、57歳の生涯の歴史に始まっております。後3回にわたり岩出山から600人がこの地に渡ったことになります。繁栄の下には、必ず困窮とそれに立ち向かった先人がいたことを忘れてはならない。

「ふゆみず田んぼ」

この事業の視察先は竹田広和さんといい、耕作面積は34ヘクタールと聞く。ふゆみず田んぼに当てている水田は50アールであり、マイナス20度以下のこの地にも水を張ることで土中の生き物や微生物たちの生態系が保たれることを知った次第である。

米ぬかなどの有機質肥料に切り替えてからは、食味値の向上も図られ、それが顧客との5年以上の信頼に有利につながっているという。また、その生物を餌にする「マガモ」などがこのふゆみず田んぼに数十羽入っていた。

有機栽培は言うに易く行うは難しで、草との戦いであり、収量の減少を価格でカバーすることが出来ない苦悩を打ち明けられた。米は直売方式を取っており、札幌まで20分の距離を直接配達するという。「生き物と自然を大切に作る農業」と「オリジナル商品の開発」を奥さん(40歳)が担当する経営者でありました。

「当別町の農業振興」

当別町の人口は約19,000人であり、戸数約7,700戸(09.7.31現在) 耕地面積8,850ヘクタールうち水田6,100ヘクタールであり、73%が転作で、麦がこのうち63%の作付けである。

農業産出額は69億円で1戸平均1,300万円の売り上げになる。平均耕作面積は13ヘクタールで、本州の面積で8倍、売り上げでは10倍になる。農家戸数は、平成10年1,021戸が、19年には672戸となり、350戸が後継者難などで辞めている。

近年札幌近郊という立地のため、切花の栽培に力を入れ、南瓜や人参などの栽培が伸びている。

石狩市環境基本計画について

1 計画の策定

石狩市は昭和40年ころより、農業・漁業中心の町から道央圏の物流を担う石狩湾新港と企業が立地する工業団地や住宅地が張り付きました。これまでの大量生産・大量消費に支えられた社会の変化は、大気汚染やごみの大量発生など深刻な環境問題をもたらした。

このような経緯から、環境基本計画と水と緑の基本計画、都市マスタープランの策定により、現在に至っている。策定に当たっては、環境共生、少子高齢化、地方分権に対応する情報公開と市民参加を柱に取り組んだ。

2 対象とする環境の範囲

以下に掲げる問題を捉え、市民・事業者・市の協働により望ましい環境像をテーマとした。

生活環境	大気、水、騒音、振動、悪臭、土壌、地盤沈下、化学物質等
自然環境	海、河川、森林、生物の多様性、生態系
快適環境	公園、緑地、景観、歴史的・文化的遺産、町並み、水辺
廃棄物・エネルギー	廃棄物、資源、エネルギー
地球環境	温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、海洋汚染、熱帯林破壊

3 計画の推進主体

市民・・・日常生活で、環境負荷の低減に努めるとともに、市の環境施策に協力します。

事業者・・・自らの活動が、環境負荷の低減に積極的に取り組み、市の環境施策に協力します。

市・・・環境の保全の社会的条件に応じた施策の策定と実行、率先して環境負荷の低減に努め、事業者、市民と協働して取り組みます。

4 事業推進にあたって

アンケートなど各種調査や市民会議は繰り返され、日を追うごとに上がる可能性が見えてきた。

各部会が市民主体で進められ、職員は調査や補助的な仕事を行う。

特に環境教育や環境学習に力を入れ、「こどもエコクラブ」・「石狩市環境行動計画」・「環境家計ノート」などに自分の実績として記帳していく。

長沼町「グリーンツーリズムの取り組み」

北海道夕張郡長沼町は、明治20年、未開の大地に先入たちが鋤を入れ、水害や冷害と闘い、今日の長沼町を築き上げた。いまは、道内農産物の主力供給基地として、更にグリーンツーリズムの受け入れや、都市との産直・交流も盛んである。

1 推薦事業・・・目的のグリーンツーリズムは内閣府より特区の認可を受け、「地域にある資源を地域の自らの創意工夫で継承し、新しく開発し、多くの人々に提供する」を理念に始まった。

都市住民や修学旅行を対象に「農家民宿事業」と食育とを組み合わせた農業体験による「都市との共生・交流」を实践、生活をともにする農家生活の体験など多くの創意工夫がなされる。

2 推薦事業・・・アグリビジネスの更なる可能性を広げる農業として、これまでの減農薬栽培から更に「北海道クリーン農産物表示制度」のイエス・クリーンの認証制度を受けクリーンな栽培に努めている。いまは地球に優しい、環境に配慮した農産物が特別のもでなくなった。

このようにグリーンツーリズムによる交流は年々広がり、当初の数倍の受け入れ先が出て、今後に期待が持てそうである。広い台地、北海道は人々の実践により可能性の広がり期待をし、私たち内地の人はもっと貪欲に可能性の追求に神経を使うべきと思い、視察先の受け入れに感謝いたします。